



みなさんと力をあわせ 実現をめざします

あなたの1票を
日本共産党

いしだ ひでみ
石田秀三へ



市民の足—生活交通を オンデマンド方式で もう待ったなし、 真に住民の声に答えた計画に

いま市内どこの地域からも「高齢者が出かけるための足がない」、「何とかバスを走らせてほしい」との切実な声が上がっています。

鈴鹿市は昨年6月に「地域公共交通計画」を策定しましたが、肝心な所が「地域の主体的な取り組みを支援する」だけ、各地の「地域づくり協議会」に丸投げするピント外れな内容で、市民の声に答える計画にはなっていません。

県内でも玉城町・明和町・桑

名市などの自治体で、オンデマンド方式でのバス(ワゴン車)運行が行われ、住民に好評です。電話かネットで予約し、近くの停留所から乗り、無料または安い運賃で目的地まで行ける、新しい方式の「生活交通」です。

鈴鹿市でも、県内の先進市町の取り組みを見習って、行政が主体となった「市民の足づくり」を進める体制を直ちに作るべきです。経費も市の一般会計予算の0.3%程度でできます。

学校給食費の無償化を

全国でも県内でも大きく進む「無償化」

相次ぐ物価高騰の中、食品など生活必需品の負担増で、庶民の生活が圧迫されています。

いま全国の自治体で、学校給食費の保護者負担をへらす取り組みが進んでいます。

文科省の調査で、給食費の負

担軽減を「実施または予定」している自治体は、全体の83.2%に達しています。

三重県でも、いなべ市・熊野市・志摩市・大台町が無償化、南伊勢町・大紀町が一部補助と増えています。

憲法26条「義務教育は無償」を広げよう

鈴鹿市の給食費は、小学生4200円、中学生4750円、他にも学校にかかる保護者負担は多くありますが、国が「義務教育は無償」にしているのは、授業料と教科書だけ。もつと憲法の理念を広げさせましょう。

一部世帯に就学援助制度の中で給食費も支援されていますが、これを子育て世帯全体へ広

げることが求められます。市教委の試算では、「全児童生徒の無償化」に必要な予算は7億5千万円。「2人目半額・3人目から無償」の場合は1億4千万円です。

多子世帯から段階的に対象を広げるなど、出来ることから取り組むことは十分可能です。





「住民こそ主人公」が 日本共産党 石田秀三の信条です



市民の声が大切にされる市政を作りましょう

「青少年の森公園」こわさないで「市民とともに運動

サッカースタジアム計画は白紙に

自然豊かな公園の樹を切ってサッカー場にする計画に、市民の反対運動が広がりました。石田秀三議員は21年9月から6回連続して市議会一般質問で、「公園こわすな」の市民の声をきちんと聞いて計画を撤回せよと、市長に求め続けました。

もともと公園を壊して作るという無理な計画の上に、サッカーチーム運営会社の運営体制や資金計画などの見通しもないことが明らかになり、22年11月、計画は白紙撤回となりました。

「公園の自然が残されて良かった！」と安心し喜ぶ市民。石田議員は「市民の道理ある反対の声が、運営会社の言い分を鵜呑みにして進めようとした行政



青少年の森公園の「サッカー場予定地」だった所

生活に困った市民に寄り添うのか、追いつめるのか

市行政が問われる 「生活保護」問題を追及



「健康で文化的な最低限度の生活」を保障するための「生活保護」制度なのに、

「車の保有」「親族の扶養照会」などのハードルを高くしてなかなか認めない鈴鹿市。石田議員と日本共産党市議団は、他市よりも格段に低い保護率、困窮し

ている市民の実態を示しながら改善を求めてきました。

いま鈴鹿市は、障がい者で車無しでは動けない方を、問答無用で「保護停止」処分にした措置に対し2件の裁判が起こされ、全国から注目されています。

「鈴鹿市はこれでいいのか？」

市政をチェックするのが議会の仕事

市民の目線で市政が正しく進んでいるかどうか、チェックするのが議員の大事な仕事です。日本共産党市議団は、住民にとって良いことには賛成、良くないことには反対という態度で臨んでいます。市長のすることに「何でも賛成」では、チェック機能は果たせません。

「青少年の森問題や「生活保護」問題では、市行政が市民の声や市民の暮らしを大事にしているかどうか問わ

れました。

いま国会でも地方議会でも「なれ合い」や「何でも賛成」が横行する中で、スジの通った議論をしっかりと進めている日本共産党。鈴鹿市議会で頑張っている石田秀三議員を、市民の代表としてぜひ選んで下さい。

